

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	20 - 文学 - 9
-----------------	-------------

平成 20 年度配分 研究成果の概要

研究名	大学生の学業への意欲と進路意識の発達と対人関係 ：家族の影響に注目して				
配分を受けた 特別研究費	文化政策学部長 特別研究費			933	千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	文化政策	准教授	福岡欣治	
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	号	
	2 学会等での発表 学会等名： 日本発達心理学会 および関連他学会(日本教育心理学会等)		発表日 (発表 予定日)	平成 21 年 3 月 (※発達心理学会)	
	3 その他 発表の方法：		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	

注：配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

大学生は、親からの心理的離乳、自我同一性の確立という発達課題に取り組みつつ、大学という新たな環境に適応し学業生活に積極的に関与していかねばならない。他方、卒業後の進路選択に向けた意識を徐々に高めていくことは、キャリア開発の観点からみて重要であり、大学生活における重要な課題の一つである。

筆者は従来から大学生の入学後の心理的適応過程における対人関係の役割について検討してきたが、本研究では特に、学業に対する意欲および進路意識の発達に及ぼす対人関係の影響について、①就職活動前後の変化、②親からの視点、を含めて検討することを目的とした。

(研究の実施方法等)

本学を含む計3つの大学(本学は文化政策学科等、他大学は生活科学系2校)において、1年生を対象として、後期末に質問紙調査を実施した。調査内容は、大学生活とりわけ学業に対する意欲と行動、精神的健康、進路に対する意識および情報探索行動、仕事に対する価値観、および周囲の他者(友人、家族、教員など)との関係を含めた。また、同時に家族(回答者は母親を想定)を対象にした調査票も配布し、回答を依頼した。内容は、家族としての子ども(学生)の進路に対する考え、子どもの考えに対する推測、子どもに対する進路関連の支援などであった。学生と家族の回答は独立の封筒に入れて別々に提出させ、また調査自体は無記名であった。ただし学生と家族の調査票には同一の通し番号をつけ、両者をペア・データとして分析できるようにした。

さらに、上記とは別に、昨年度調査を実施した短期大学において、卒業を控えた2年生に対する調査も実施した。昨年度は1年生として回答をしており、1年間を経た縦断調査であった。昨年度の調査内容は上記の学生調査と同様であったが、今回は実際に自分がどのような進路を選択したか、選択した進路に対する考え、就職活動の様子、周囲からの支援などの内容を含むものであり、現実の進路関連の活動に、本人の進路意識や周囲との関わりがどのように影響するかを分析できるようにした。

(得られた成果等)

大学生活への適応は、環境移行の心理的問題としても、また教育実践上の問題としても重要である。とりわけ、入学者の大半が就職を希望する状況の中では、入学後早い段階から進路意識の段階的な醸成が必要であろう。本研究のデータはその基礎資料として活用し得るものになることを意図している。同時に、大学生の心理的適応過程における対人関係の一般的役割に関しても、知見の拡充が期待される。

現時点ではデータ分析を継続中であり、詳細は本年度の日本発達心理学会その他で報告する予定である。大学生への進路関連の支援に向けた有益な結果を抽出したい。